

笑顔の訳（わけ）

ラジオネーム：あつこ

おとうちゃん、早いもので十三回目になりますね。あつこという間違った名前であり、随分昔のことの名前でもあり、時間の経過はあいまいなものです。

おかあちゃんは、92歳になりました。物忘れが進んできて、よく同じ話をします。たいがいは、おとうちゃんの話です。お見合いで初めて会った時、生真面目なおとうちゃんは、緊張のあまり汗が止まらず、おかあちゃんがハンカチを差し出したこと。そのハンカチを「とても使えません。大丈夫です」と差し戻し、スーツの袖で拭いていたおとうちゃんが「かわいらしかった」そうです。

おおらかなおかあちゃんのことだから、余裕尺尺だったのかと思いきや、「じいでもない。親が愛想よへへしてる」と言っもんだから、大好物の大福が目の前に積み上げられているのを思い浮かべてニヤニヤしてただ「って。おとうちゃん、大福にされてただって（笑）。「おかげで、明るく、気立てのいい娘だと大いに気に入られた」って、うれしそうに何回も何回も話してへねます。私がね、「おとうちゃんには

